



第一回 砧中学校×スリランカ 学生交流会

2025年3月27日 13:00～15:00

@世田谷区立砧中学校 @SHISHI YAMASU(PVT)LTD

@HIC TOKYO SMOKE Lab

《主催》

一般社団法人ココロ to カラダ Project

おんおり世界平和基金

【女性と子どもの平和宣言とおんおり世界平和基金】

「女性と子どもの平和宣言」は、2023年4月に一般社団法人ココロ to カラダ Project の活動として始まりました。私たちは、脆弱な立場にある女性や子どもが安心安全かつ健康で平和に暮らせる社会を実現することを宣言します。

おんおり世界平和基金は、メディアミックスで、SDGsへの関心を高め、国・企業・自治体・団体・個人等に囚われず、様々なプロジェクトや活動を支援・達成するために設立されました。「誰もが平等に健やかで心豊かに暮らせる権利」を保有しているということをすべての人々が尊重し、その権利を履行できる。また、互いを理解し認め合い、寄り添い協力し合い、地球の環境を守り、貧困をなくしていくことを目指します。

【開催趣旨】

本イベントは、世田谷区立砧中学校の子どもたちからの「海外で暮らす同世代の子どもたちと交流をしてみたい」という言葉がきっかけで始まりました。約6,800km離れた場所にいる日本とスリランカの子どもたちが、最新のXR技術を活用してより臨場感のある交流を実現しました。スリランカで暮らす同世代の子どもたちと、日本に暮らす中学生が相互の理解と親交を深め平和意識を醸成することを目指しています。

【実施概要】

名称：第一回 砧中学校×スリランカ 学生交流会

主催者：一般社団法人ココロ to カラダ Project おんおり世界平和基金

運営：砧中学校×スリランカ 学生交流会 実行委員会

後援：一般財団法人国連支援財団、

一般社団法人国連支援 SDGs 促進協会

協賛：株式会社 HIC(東京都)、SHISHI YAMASU(PVT)LTD(スリランカ)

協力：世田谷区立砧中学校(東京都世田谷区)、

Sussex Collage-Kiribathgoda、Central Collage ,Piliyandala、

Keble Collage ,Ambuldeniya、Mahanama Collage,Colombo03

Lumbini Collage,Colombo、Dharmasena Artigala Girls School,Piliyandala、

Ananda Maha Vidyalaya,Kottawa

砧中学校公認地域サークル Kinuta-Seed

日時：2025年3月27日(木)

会場：世田谷区立砧中学校(東京都世田谷区)、SHISHI YAMASU(PVT)LTD(スリランカ)

HIC TOKYO SMOKE Lab(東京都中央区) (※敬称略)

◆砧中学校×スリランカ 学生交流会 実行委員会

大 橋 武 久(一般財団法人国連支援財団 国際プロジェクトスリランカ担当)

小 林 宏 至(一般社団法人ココロ to カラダ Project 理事)

橋 本 淳 也(一般社団法人ココロ to カラダ Project 理事)

他、運営サポートスタッフ、ボランティア多數

【XR 技術 ご紹介】

XR(エクステンデッドリアリティ)は、VR(仮想現実)、AR(拡張現実)、MR(複合現実)などを含む技術の総称で、現実世界と仮想世界を融合させることで新しい体験を提供します。エンターテイメントやゲームだけではなく、医療、製造業、観光など多岐にわたる分野で活用されており、今回は教育分野での活用となりました。

5G や AI との連携により、より没入感のある高精度な体験が実現しており、XR は今後も進化し続ける技術として注目されています。



【実施詳細】

(第一部)

○開会の言葉

MC を務める小林宏至さんから、本イベントの趣旨と XR 技術の紹介をするところからスタートしました。子どもたちに対して、このイベントでお互いの相互理解を深めより親交を深めていきましょうとお話がありました。

制作された CG を動かし会場を中心に 360° 見渡してみたり、花火が打ち上ったりと非常にクオリティの高いバーチャル空間の紹介もしました。



○私たちの町の紹介

(砧中学校)

砧中学校の子どもたちが撮影した映像をもとに作成された紹介動画を観ました。動画では、学校の周りや部活動の様子など、普段の生活がわかるような素晴らしい動画でした。また、学校から出て紹介された町の様子では、東宝スタジオ前のゴジラとの記念撮影や、最寄り駅である小田急線祖師ヶ谷大蔵駅、地域の氏神様となる三峰神社と日本の神社にまつわる歴史や文化の紹介なども行いました。それを見たスリランカの子どもたちは、神社に興味を持ち是非日本に行って神社を見てみたいと目を輝かせていました。



(スリランカ)

次にスリランカの子どもたちからの紹介動画を観ました。子どもたちが暮らす町の様子をまとめてあり、お寺やそこでお参りする人たちの様子や、自然豊かな動物園などの様子も紹介されました。コロンボの中心街は非常に都会的でした。

日本の子どもたちは、自然豊かな様子は日本の北海道のようだという意見や、日本とは違った印象のお寺にも非常に興味を持っていました。



(第二部)

○意見交換

第二部では、事前アンケートによって集まった回答をもとに意見交換を行いました。

テーマは、

- ① 行ってみたい国はどこですか？
 - ② 趣味は何ですか？
 - ③ 将来なりたいもの・やってみたいことは？
- の3つでした。

① 行ってみたい国では、日本からはアメリカ、イギリス、スペイン、イタリアなど欧米の国々が多かったのに対して、スリランカからは参加10名のうち7名が日本と答えるなど日本に対しての興味度の高さが印象的でした。

アメリカに行きたい理由としては「雄大な自然を見てみたい」、イタリアに行きたくなる理由としては「自然や文化も興味深いし、ご飯も美味しいだから」という意見もあり、それに対する意見交換も行いました。

スリランカの子どもたちからは、「日本の大阪や京都、奈良などへ行ってみたい」「神社についてもっと知りたい」などの意見が出て、お互いに良い刺激になりました。

最終的には、参加した日本の子どもたちから「是非スリランカに行ってみたい」という意見も飛び出し、お互いの国に対する興味は非常に高まったと思います。



- ② 趣味については、オープニングの自己紹介で話していたので割愛されましたが、日本の子どもたちは「スポーツをすること」「漫画を読むこと」「ギターを弾く」「天体観測」などの回答があり、スリランカの子どもたちは「レゴを作る」「ダンシング」「美術」「読書」などの回答がありました。

- ③ 将来なりたいもの・やりたいことについて
は、日本から「絵本を描くこと」「起業家」「科学者になりたい」などの回答があり、スリランカからは「パイロット」「科学者」「医者」「ビジネスマン」などの回答がありました。

スリランカの子どもたちが、それらの職業に就いてスリランカで暮らす人々や国の役に立ちたいと話していることについて、日本の子どもたちからは「スリランカの子どもたちが国やスリランカの人たちの役に立ちたいと考えているのはとても良いと思う」とコメントしていたのは非常に印象的で、昨今“日本のために”と考えることが少なくなってきた私たちにとってとても新鮮な考え方だったのかと思います。



○あいのうた

おんおり世界平和基金のテーマソングとして作成された『あいのうた』を子どもたちと一緒に聞きました。このあいのうたは、MCの小林宏至さんが作詞作曲したチャリティソングで、大和言葉という日本語古来の響きを大切に作られた楽曲です。レコーディングには100名以上が参加し世界平和への願いが込められています。



○エンディング

限られた時間での通訳を交えた交流ではありましたが、あっという間に時間が過ぎていきました。MC小林宏至さんの巧みなファシリテーションによって、子どもたちの意見交換は非常に活発に行われました。それぞれに感想を聞くと、「このプログラムに参加して非常に有意義だった」という感想が多くありました。また、「想像をはるかに超える映像のクオリティに驚いた」などの意見もあり、非常に満足度の高い取り組みとなりました。

フィナーレではCGの会場で大きな花火がたくさん打ち上げられ、約6,800Km離れた日本とスリランカにいる子どもたちが、同じ花火と一緒に観るという不思議な体験で幕を閉じました。

<子どもたちの様子>



<総括として>

今回初の取り組みとなる【第一回砧中学校×スリランカ 学生交流会】は、予想を超えた盛り上がりをもって幕を閉じました。本イベントはたくさんの関係者の方々のご協力によって開催することが出来ました。

世田谷区立砧中学校やスリランカの中学校の皆さんをはじめ、運営は砧中学校公認地域サークル Kinuta-Seed の皆さんにご協力いただきました。

また、ご協賛頂いた SHISHI YAMASU(PVT)LTD 様にはスリランカでのサポートを、株式会社 HIC 様には XR 技術を活用した CG 背景と撮影スタジオの提供をして頂きました。ご後援頂いた一般財団法人国連支援財団様、一般社団法人国連支援 SDGs 促進協会様、他にも影ながら本イベントにご協力して頂いたすべての関係者様に心より御礼申し上げます。

子どもたちは、短い時間ではありましたが海外で暮らす自分と同年代との交流に、非常に楽しそうに参加してくれました。また多くの子どもたちがお互いの国へ行って自分の目で見て、耳で聞いて感じたいと話してくれました。そういった子どもたちの積極的な姿勢には非常に大きな可能性を感じました。中学生というあどけなさの残る年代ではありますが、時折見せる大人顔負けの鋭い視線や意見には目を見張るものがありました。

最後に砧中学校の参加者から「今回、私が外国の子どもとの交流がしてみたいと相談したことがきっかけで、このような素晴らしいイベントを開催して頂きとても嬉しかったです。ありがとうございました。」という言葉をもらいました。

今回のイベントを経て、これからも「大人に相談してよかったです」と思ってもらえるように子どもたちの声に耳を傾けながらサポートしていくことを感じました。

一般社団法人ココロ to カラダ Project
理事長 大橋 亜季